

# 現在(いま)、このときを、大いに味わう

## ～ 県立併設型中高一貫教育高の挑戦 ～

仙台二華中学校・高等学校長 山内明樹

### <これまでの勤務校>

- ・宮城県志津川高等学校
- ・宮城県泉松陵高等学校
- ・宮城県石巻北高等学校
- ・宮城県小牛田農林等学高校
- ・宮城県宮城野高等学校
- ・宮城県仙台二華中学校・高等学校(現在)

### はじめに「志す」

私自身、高校生、大学生の頃は、生きるということについても、働くということについても、あまり深くは考えていなかったように思う。漠然と「何か生きがい・やりがいが見つけれられる仕事に就けたらいいな。収入を得て経済的に自立しなきゃいけないな。」という程度。

今の仕事(教師)に就いたきっかけは、教育実習。人のために力を尽くすことで、自分自身が満たされていくという初めての経験をした。また、このことにやりがいを感じるということに気づいたから。以来、私にとって、生徒の成長を、その傍らで見守れること、ともに悩みながら歩き続けることは、この上ない喜びとなる。

### 文化祭「現在(いま)、このときを、大いに味わう」

平成28年秋。文化祭開会式。「高校生の今しかできないことがある。中学生の今しか味わえないことがある。一期一会の文化祭。各々の「現在(いま)」をとことんやりきり、大いに楽しみなさい。」と、挨拶。台風の間隙を縫っての開催となったが、生徒の熱意と頑張りもあり、校舎は大いに賑わい、そして、笑顔があふれた。

二華では、授業も、部活も、そして行事も、学校生活のすべてにおいて、「一期一会の覚悟で楽しみ」と、指導する。一期一会の覚悟とは、すべてにおいて手を抜かず全力を尽くす、と云うこと。これが、二華のすごさであり、素晴らしさ。中高一貫教育校ならではの「ゆとり(利点)」を最大限に活用した、「豊かな学び」が、ここにある。



## 全人教育「学ぶこと・働くこと・生きること」

学校教育の目標は、人材育成。次代を担う社会人を育てること。教師の使命は、生徒の力を最大限に引き出し、自己を社会に位置づける態度を身に付けること。教育は、必然、全人教育、全人格的な教育となる。次代を見据え、勇気を持って新しきに挑戦しながら、一方では、流行に惑わされることなく、教育の本質を、ぶれることなく追究する。

これを生徒目線で捉えれば、自己実現と云うことになる。この自己実現だが、頭に「社会的」と付け「社会的自己実現」と表現するようにしている。

自分のことを知り、世の中のことを考え、自分は、将来、社会の中でどんな役割を担うのか。志を立て、今、何をすべきかを考え努力する(進路目標もその一つ)。そして、次代を担い、次代に遅れぬ人となる。



## グローバルイシュー「世界を見つめ、自分を知る」

開校以来、教育の重点として注力してきた課題解決型学習(主体的に学ぶ態度や課題解決型の能力を育てる学習)については、スーパーグローバルハイスクールの事業指定を機に、体系的・組織的な取組として動き出している。活動の中核をなすのは、「課題研究」。生徒は、教科学習を中心に獲得した知識や技能をフル活用しながら、自ら立てた「問(グローバルイシュー)」に迫っていく。

二華では、体験を重視する。本物を見る、本物に触れる多くの体験(出会い)を通じて、主体的に学ぶ態度や意欲を引き出しながら、適切な世界観(価値観)、学習の基本スキル、課題解決型の能力を育てていく。価値観とは、「何を大切にするか」そして「どう生きるか」ということ。生徒は、解決策を探りながら(多様な価値観に触れながら)、「人は、自分は、どう生きるか」という「問」にも迫ることになる。





## 志「誠の心磨きつつ 清き光を世に揚げむ（校歌）」

中学生・高校生というこの時期に、何を志し全力で追おうとするのか。それは、その人がどんな人生を送ろうとするのかに通ずる。学校で、何を学ぶかは、社会で何をするのかという、自分の役目を見つけることにも繋がっている。大学に入るということは、役目を実行に移すための始まりであり、そのことが人生の目的ではない。目的は、更にその先にある。

「自分の役目を見つける」。これは、学校生活最大のテーマ。生徒には、何になるかではなく、どう生きるかを見つめてほしい。どう生きるかとは、何を大切にするかと云うこと。そして、自分らしさを見つけることだ。自分がある、存在する価値を見出し、役目を自覚する。それは「幸せとは何か」という問いにも、つながっている。自分らしく生きることを、全力で、追い続けることで、仙台二華という、今、このときを、大いに味わってほしい。



## 志「教師の志」

生徒を育てる一番は、生徒自身が持っている「生きる力(生命力)」。学校は、教師は、これを引き出す。だから、その責任は、重い。

学校は、勉強をするところ。「生き方」を勉強するところ。そこには「人はどう生きるか」という「問」がある。我々教育に関わる者は、この視点を忘れてはならない。教育と名のつくものは、すべて、根底に、この「問」があるから、行う意味があるのであり、受ける価値がある、と考える。だから、その責任は、極めて重い。もって、教師にとって、生徒の歩を、時を同じくしながら、その傍らで見守ることは、この上ない喜びとなる。

